



- 館長談話
- リレー講演会とサイエンスカフェ開催しました
- 図書館からのお知らせ

コンビニだってラーメン屋だって図書館だって、ある日突然「店じまい」する！

図書館長 藤尾 均



学生の皆さん、近所のコンビニが突然「店じまい」したという経験はありませんか。最良（ひいき）にしていたラーメン屋に行ってみたら別の店になっていたという経験はどうですか。どんな店も、ペイ（pay）しなくなったらおしまいです。閉鎖したり営業時間を短縮したりするのは当然です。同様なことは本学の図書館にだってあり得るのです。



「親方日の丸」だった国立大学も、法人化されて10年が経ちました。法人化とは文字どおり会社化ですから、本学も民間企業と同様に、常に採算を意識しなければならない存在なのです。

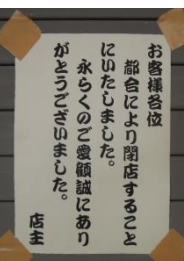
現在、旭川医大図書館は24時間365日、開いています。まさに都会のコンビニと同じです。しかし、この半年ほど、学生の図書館利用マナーが著しく悪くなりました。とくに、いわゆる無人開館時間帯（午後8時から翌朝9時まで）における一部学生のマナー違反には、目に余るものがあります。机に落書きする、備品のパソコンを立ち上げたままにしておく、飲食して食べ滓や包み紙や容器を散らかしておく、消しゴムの滓を放置しておく、足の爪を切って放置しておく、など、挙げていったらきりがありません。出勤してきた図書館職員は、それらのゴミを片付けたり、机や床を拭いたり、注意喚起のポスターやEメールを作成して啓発したりすることに時間を費やし、この数か月は本来業務に支障をきたしているありさまです。



そもそも無人開館時間帯に図書館を利用する学生には、「図書館無人開館利用許可申請書」を提出してもらっていますが、上記の行為は明らかに申請書の注意書きに違反しています。違反している以上、図書館職員としては取締まらざるを得ません。防犯カメラの映像を再生したり、「犯人」を呼び出して嚴重注意したりと、ここでも余分な時間をとられています。

国立大学はどこも、法人化以後、必要最低限の事務職員で運営しています。取締まりのために新たに職員を雇う余裕はありません。だからといって現役職員に余計な負担をかけ、超過勤務手当を支給することになっても、やはり大学予算の支出超過につながります。ペイしなくなったら『夜間営業』つまり無人開館は中止せざるを得ません。

図書館の建物はもちろん、その内部に置かれているパソコンや机・椅子、図書などは、いずれも大学の資産ですから、盗まれたり汚損されたりした場合には、資産管理責任者（図書館職員ではない総務部長や教務部長）が責めを負うことになります。責任者が資産管理に危機感を覚え、図書館長に訴えを寄せてきた場合、館長としては、対策を立てなければなりません。「旭川医科大学図書館利用規程」第6条第4項には、「館長が必要と認めるときは、開館時間を変更することができる」とあります。これ以上、館長を怒らせる学生が出現しないことを、願うばかりです。



なお、皆さんの中には、「自分たちはマナーを守って図書館を利用している。一部の不心得者がいるために自分たちまでもが連帯責任を負わされるのはおかしい」と反発する人もいるかと思いますが、開館時間帯の短縮は、学生全員に連帯責任を取らせようとして行うものではありません。無人開館を続けても採算が取れないからです。コンビニやラーメン屋の「店じまい」だって、最良にしてくれていたお客さんには何の責任もありません。

リレー講演会とサイエンスカフェ開催しました

増築棟オープニングイベント第2弾！第3弾！

10/9(木)

昨年も好評でした、旭川ウェルビーコンソーシアムのリレー講演会「1時間で分かる三浦綾子2014」を開催しました。

講師は本学の吉田貴彦教授と三浦綾子記念文学館の森下先生でした。

講演の後には、森下先生より参加した学生さんに三浦綾子の文庫本をプレゼントしていただきました。

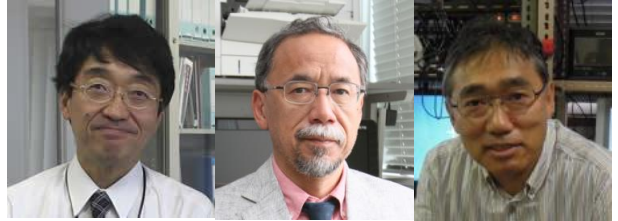
三浦文学に触れる良いきっかけとなりました。



10/24(金)

4回目となる図書館サイエンスカフェの今回のテーマは『からの自然史』でした。

高井先生は「地球の歴史と生物進化」、柏柳先生は「あなたの鼻は一つ、二つ、三つ？ー適応のための変幻自在に進化する嗅覚系」、高草木先生は「動物が進化で得たものは何か？」と題し、生物の進化とそれぞれのご専門の内容とを絡めた科学トークで参加者を魅了しました。



サイエンスカフェは、10月最終週のオープンアクセスウィークのイベントとして行っています。オープンアクセスウィーク (OAW) とは、機関リポジトリ (本学では AMCoRアンコール) 等、インターネットを通じて研究成果を無料で公開し、世界中の人々が対価なく享受できるようにする「オープンアクセス」の意義を広めるための国際的な促進週間 (毎年10月の最終週) です。世界中の大学や図書館で関連イベントや広報が行われています。本学でも毎年行っています。

図書館からのお知らせ

完全閉館

平成26年12月10日(水)AM9:00から
平成27年 1月7日(水)AM9:00まで

<停止するサービス>

- ・資料の利用 (閲覧、複写、貸出)
- ・パソコンの利用、印刷
- ・座席の利用



入口部分の工事に伴い、増築棟で行っている全てのサービスを停止します。

※但し、Webサービス(電子ジャーナル・MyOPAC等)の利用は通常通り可能です。学外文献複写の受渡し場所は、期間中のみ共用研究棟2階の図書館仮事務室になります。

長期貸出

貸出期間：平成26年11月25日(火)から
平成26年12月10日(水)AM9:00まで

貸出冊数：図書10冊まで、製本雑誌5冊まで
(未製本雑誌は対象外)

返却期限：図書は平成27年1月14日(水)
製本雑誌は平成27年1月7日(水)

完全閉館に伴い、資料が全く使えなくなりますので、12月の通常の長期貸出より冊数を増やし、貸出期間も延長します。どうぞご利用ください。



図書館学生アルバイトのひとこと④

図書館バイトの紅露絃史です。
木々も葉を落とし、いよいよ冬となりますね。私もバイクを降り、コタツムリへと変態する季節です。
以前地域医療コーナーにあった、「人は死ぬ」それでも医師にできること」という本をご紹介します。(現在工事中のため貸出していません)
簡単に言うと、著者の名郷先生のエッセイのような内容。EBMや地域医療、出会った患者のエピソード等がざっくばらんに書かれています。
この本を読んで、医学生になりたてだった私は肩の力を抜くことができました。
卒業後や、これからの進学について不安や焦燥に駆られた時、手に取ってみてはいかがでしょうか。ほんのちょっと気持ちが落ち着くかもしれません。

